

沖縄県立総合教育センター 所報

第59号 2008年10月発行

発行者 沖縄県立総合教育センター

所長 大城 浩

〒904-2174 沖縄県沖縄市字与儀587番地

電話 098-933-7555 FAX 098-933-3233

URL <http://www.edu-c.open.ed.jp/>



「踏襲は退歩，挑戦こそ前進」の気概を！

～未来社会の創造者の育成に向けて～

所長 大城 浩

沖縄県立総合教育センターの主要5大事業の一つに「普及・広報事業」がある。その目的は「図書・教育資料を整備・充実し，教育関係者の利用に供するとともに，各種の研究成果を刊行し，教育実践のための情報を提供すること」である。この「所報」もその一つで，創刊号が発行されたのは昭和47年（1972年）に琉球政府立沖縄教育研修センターから沖縄県立教育センターに名称を変えた復帰の年である。新しい時代の教育の創造に向けて，今回で59号の刊行となる「所報」の果たしてきた役割を再認識するとともに，先人たちが残してきた様々な教育実践を通して「教育の全体は教師である」ことを改めて認識し，教育が本来の理念である「人間を育てる営み」としての役割を見据える機会になれば幸いである。今号では，主要5大事業の紹介から前期（4月～9月）に開催された主な行事等を紹介している。特に「研修事業」の一環として開催された前期長期研修員の研修成果報告会は，見るものを圧倒するぐらいの内容であった。本県教育課題に果敢に挑戦した研修員と指導して頂いた指導主事や研究主事の協働作業の証である。

研究内容は本総合教育センターのホームページ（<http://www.edu-c.open.ed.jp/>）へアクセスすれば閲覧することが可能なので研究成果の一端を県民各位が共有し，本県教育課題の解決に向けて，少しでも寄与出来ることを期待したい。

さて，本総合教育センターは昭和35年に那覇市

首里で「科学教育センター」として出発して以来，多くの変遷を辿りながら昭和59年に現在の沖縄市に移転している。施設面でも他県にはない「IT教育センター」の設置および専門高校生に先端技術を提供する「産業技術教育センター」の設置等，人的資源・物的資源の宝庫として国内でも有数の総合教育センターとして位置づけられている。花と緑豊かなセンター作りを目指しながら児童生徒の「学力向上」，学校の「学校力向上」，教師の「指導力向上」のための様々な支援を全所員が展開していることを自負するとともに，次の「4つのC」を日々心がけていきたい。

一つ目の「C」は「Challenge」：今日的教育課題への挑戦。二つ目の「C」は「Consider」：自ら考える力の創造。三つ目の「C」は「Control」：自分をコントロールできる能力の育成。四つ目の「C」は「Communication」：相互理解できる態度の育成と係わりの創出。

私たちがなすべきことは「踏襲は退歩，挑戦こそ前進」の気概を持つことである。21世紀を担う子ども達が「未来社会の創造者」として，世界の大舞台で活躍するための「術」を身に付けるために，関係機関が共に手を取り合いながら力を注いでいくことが必要である。ここに改めて沖縄県立総合教育センターの教育機関としての使命と役割に対して，県民各位のご理解とご支援をお願い申しあげたい。

*****もくじ*****

● 巻頭言 「踏襲は退歩，挑戦こそ前進」の気概を！ ～未来社会の創造者の育成に向けて～	-1-
● 平成20年度前期長期研修成果報告会・前期研修員テーマ一覧	-2-
● 平成20年度調査研究事業	-3-
● 平成20年障害児巡回就学相談事業・特別支援教育理解推進事業・発達障害の理解と支援	-4-
● 美ら島e-net（遠隔学習）システム・教材開発一覧	-5-
● 教育相談事業・沖縄県教育研究所連盟大会特別講演	-6-
● 初任者研修・教職5年経験者研修	-7-
● 研修を終えて・平成21年度長期研修員募集	-8-

平成20年度前期長期研修成果報告会

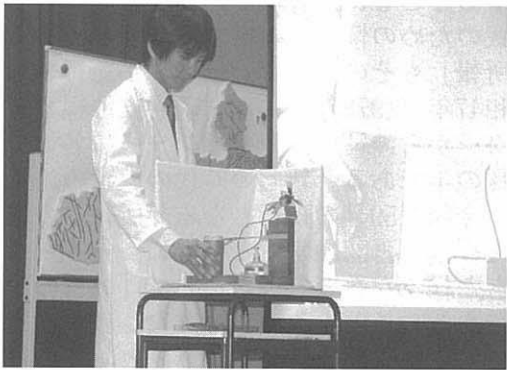


平成20年度前期長期研修成果報告会が9月10日(水)、11日(木)、12日(金)の3日間開催され、前期研修員24人、離島長期研修員4人、計28人が関係学校長はじめ、関係各位の激励を受け、6か月の研修成果を報告しました。

教科研修班では、各教科を通した考える力、表現する力の指導法についての研究を中心に報告があり、喜友名勉教諭は、「意味付け復唱法」を活用することによって、粘り強く問題に取組み、筋道を立てて解決に向かう態度を育成できたことを報告しました。また、離島長期研修員新本真理子教諭による音読による学習効果の報告では多くの参加者が「読む」ことの重要性を再認識することができました。教育経営研修班の宮平壮教諭による組織マネジメントに関する研究では、「SWOT分析」を活用することにより、「学校ビジョン」が明確になるとの報告があり、今後の学校活性化に繋がるものと期待できます。理科研修班においては、舞台上の演示実験が好評で、化学研究室の幸地巧教諭は、ものづくり活動は学習したことを振り返ることができ、理解を深めるとともに、関心・意欲を高めるために有効であるとの報告がありま

した。習得した知識や技能を活用することが、意欲的に学習する態度を育成することになることを実証された素晴らしい研究だと思います。また、発達障害への対応が喫緊とされているなか、特別支援教育班の山下貴之教諭による特別支援教育に関する校内体制づくりに関する報告は、各学校の参考になるものだと思います。

この3日間の成果報告会は、各自の研修テーマに基づき、今日的課題解決のための、意欲的で熱意が伝わるものでした。研究成果を学校現場に持ち帰り、多くの先生方と共有し、子どもたちに還元していただきたいと思います。研修員の皆さんのご活躍を祈念します。



前期研修員テーマ一覧

研修員氏名	研修テーマ	研修員氏名	研修テーマ
佐藤 繁	学ぶ意欲を高め論理的表現力を培う作文指導	宮良 健	実践的コミュニケーション能力を高める学習指導の工夫
知花 人	社会的なものの見方や考え方を育成する指導の工夫	永井 裕子	豊かな人間関係を築く予防的・開発的教育相談の工夫
喜友名 勉	数学的な考え方を育成する指導の工夫	崎浜 史子	望ましい人間関係を築くための教育相談の充実
島尻千賀子	感じ取る力を育む指導の工夫	宮平 壮	学校ビジョンと教師の使命づくり
玉榮 淳子	基礎・基本の定着を図り、意欲的に英語を話す生徒の育成	上原 健秀	「電磁誘導」の理解を深める指導の工夫
仲里 和恵	言語感覚を育成する授業の工夫	内原 徹	科学的な見方や考え方を高める指導の工夫
仲田 邦彦	地理的な見方や考え方を育成する授業の工夫	赤羽 里映	食を選択する力を育む指導の工夫
大城まち子	自己実現に向けた生活習慣を改善する実践力の育成	幸地 巧	体験活動を日常生活に実感できる指導の工夫
金城 圭子	器楽表現の能力を高める指導の工夫	棚原 章夫	地学的な現象への探究心を高める指導の工夫
瀬長 千子	生徒の学習意欲と表現力を高める授業の試み	山下 貴之	中学校における特別支援教育の体制づくり
桃原 順子	進んでコミュニケーションを図ろうとする児童を育てる英語活動の工夫	宮平 順子	肢体不自由を主障害とし、聴覚障害を併せ有する児童のコミュニケーション支援の在り方
玻名城太詩	自ら進んで取り組もうとする態度をはぐくむ英語活動の工夫		
下地 操	知識や技能を活用する力を育てる学習指導の工夫	岡越 猛	知的障害特別支援学校小学部における「キャリア教育」の在り方
新本真理子	豊かな言語力をはぐくむ学習指導の工夫		
友利 芳江	意欲的に単語を書こうとする生徒の育成	鳥養 広	盲学校幼稚部における重度重複障害児の発達を促す指導

平成20年度調査研究事業

総合教育センターの主要5大事業の一つである「調査研究事業」は、『『生きる力』をはぐくむ学校教育の創造』を共通テーマに設定し、各研究を進めています。今号では、2年目を迎えるプロジェクト研究（キャリア教育）を紹介します。

沖縄県立総合教育センターでは、平成19年度よりキャリア教育についての研究を進め、その成果として、平成19年3月に「沖縄県キャリア教育推進事例研究～小・中・高・特支での実践事例集を通して～」(以下「実践事例集Ⅰ」という)を刊行しました。

実践事例集Ⅰは、児童生徒が将来、社会人・職業人として自立することができるように、各学校におけるキャリア教育の具体的な取り組みを支援、教師の意識改革と資質の向上を目指して作成しました。

「理論編」「実践編」「情報編」から構成されており、「理論編」はキャリア教育の理解を深めることを目的とし、「実践編」は、キャリア教育を推進するために、学校の教育活動を有機的に組み合わせる視点を示したキャリア教育プログラムや、「職場体験・インターンシップ」「総合的な学習の時間」「特別活動」「道徳」等の指導案を掲載しました。「情報編」には、キャリア教育の推進に役立つサイト・図書資料等を掲載することができました。

キャリア教育について、2年目を迎える今年度の研究では、昨年度の続版として「沖縄県キャリア教育実践事例集Ⅱ」(以下「実践事例集Ⅱ」という)の作成に取り組んでいます。実践事例集Ⅱの研究内容は、第一に、実践事例集Ⅰの検証を行うことです。実践事例集Ⅰに掲載した指導案を用いた授業実践を行い、その結果得られた成果や課題などの分析を行い、効果を検証することで、具体的な工夫改善の検討を行い、より実践的・効果的なキャリア教育プログラム、指導案の提示につなげていきたいと考えています。第二は、実践事例集Ⅰに含まれていない「キャリア教育の視点に立つ教科指導」について取り上げ研究を深めることです。「キャリア教育は、生徒のキャリア発達を支援する観点から学校の全ての教育活動を通して推進されなければならない」(文部科学省：H18年1月キャリア教育推進の手引)という視点か

ら、実践事例集Ⅰに含まれていない教育活動「教科」の研究を進めることにより、すべての教育活動を網羅した、さらに充実したキャリア教育実践事例集につながると考えています。

「進路実現のための確かな学力の育成」は、本県キャリア教育の目標の一つでもあり、キャリア教育と教科指導について研究を深めることは、児童生徒の望ましいキャリア発達のために重要です。さらに、中央教育審議会答申(平成20年1月)においては、「キャリア教育」の項目を新設、「変化する社会の中で直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、子どもたち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実する必要がある。」とその重要性が明確に示されました。このような動向をうけ、プロジェクト研究委員会では、新学習指導要領におけるキャリア教育の位置付けについての研究も、実践事例集Ⅱにおいて進めたいと考えています。

実践事例集Ⅰの効果の検証を行いながら、学校の教育活動全体をキャリア教育の範囲と捉え、キャリア発達の視点から諸活動を有機的に関連づけ、学校の教育活動の充実、児童生徒のより良い成長のため、「キャリア教育」の研究に今年度も取り組んでいきます。

H20年度：プロジェクト研究

キャリア教育の充実に向けて実践事例集Ⅱの発刊

○前年度の研究を検証することによる効果的な活用方法の提案

○キャリア教育の充実に向けた教科指導のあり方の提案

○道徳、特別活動、行事に教科を関連づけた学習プログラムの提案

○キャリア・カウンセリングに関する解説の充実

平成20年度 障害児巡回就学相談活動事業

障害のある幼児をもつ保護者に対する就学相談、特別支援学校及び特別支援学級の教育課程等の情報提供の場としての巡回就学相談活動事業が開始されてから23年が経過しました。平成19年度までの相談件数は、のべ3,663件に上がっています。

平成20年度は、県立名護養護学校会場での開催を皮切りに離島を含め全10カ所で障害児巡回就学相談会を実施いたしました。保護者及び保育園や幼稚園の先生方を含め相談をうけた対象幼児はのべ145人で、専門家による療育や就学の相談、情報提供を行いました。

また、今年度より、糸満市と名護市が独自に就学相談会を実施しました。このような地域主体での相談会等の開催は、保護者への支援の充実と地域に在住する障害児の状況を理解把握する上で大変望ましいことと考えています。

今後、特別支援教育班としましては、市町村教育委員会主体の就学相談がさらに推進されるよう、これまで培ってきたノウハウについての情報を提供し、支援していきたいと思います。

平成20年度 巡回就学相談会

月日	会 場	対象市町村
6月12日	名護養護学校	今帰仁村・宜野座村・本部町・金武町
6月17日	読谷村役場	恩納村・読谷村・嘉手納町
6月27日	北中城村中央公民館	北中城村・北谷町・中城村・西原町
7月2日	うるま市シビックホール	うるま市
7月4日	久米島町役場	久米島町
7月8日	南城市役所	南城市・八重瀬町・南風原町・与那原町
7月10日	伊江村役場	伊江村
7月14日	沖縄市中央公民館	沖縄市
8月28日	粟国村役場	粟国村
9月3日	石垣市大浜信泉記念館	石垣市 竹富町

特別支援教育理解推進事業 スタート

平成20年度より、県教育庁県立学校教育課・義務教育課主管の特別支援教育理解推進事業が始まりました。当センター特別支援教育班では、主管と協力して同事業の実施に向けて取り組んでいます。

特に管理職・教員研修や特別支援教育コーディネーター養成研修では、発達障害の理解と校内における支援体制の構築等についての講義を行っています。



発達障害の理解と支援 「はじめの一步 Part 2」発行！

発達障害への対応が喫緊の課題である今、県教育庁と当センター特別支援教育班の共同作業で、「特別支援教育のはじめの一步Part2」を発行しました。学習指導をはじめ、行動や対人関係の課題に対応する事例、保護者への支援、校内支援体制の構築から個別の教育支援計画に至るまで、充実した内容になっています。特に特別支援教育コーディネーターにとっては必需品であると自負しています。ぜひご活用ください。

センター特別支援教育班（資料刊行物）よりダウンロードできます。



<http://www.edu-c.open.ed.jp/tokusyu/tindex.htm>

美ら島e-net（遠隔学習）システム

美ら島e-net（遠隔学習）システムは、平成18年度IT教育センターに構築した「学習管理システム」、電子メール・掲示板・テレビ会議の機能を有する「コミュニケーションシステム」、多くの教材等が蓄積された「教育情報共有システム（既存システム）」の3つのシステムを統合した新しいシステムにより、離島・へき地地区の児童生徒の学習を支援するものです。

平成19年度は、検証協力校9校（与那国町立与那国小学校、宮古島市立宮島小学校、嘉手納町立嘉手納小学校、竹富町立船浦中学校、宮古島市立城辺中学校、北中城村立北中城中学校、八重山商工高等学校、翔南高等学校、西原高等学校）によるシステムの検証を進めてきました。平成20年度は、離島地区の学校を中心に美ら島e-net（遠隔学習）システムの活用を進めていく学校を募集し、学校ID・ユーザID・パスワードを発行してシステムの本格運用を進めています。

○学習管理システムの概要

学習管理システムは、児童生徒がインターネットを用いてIT教育センターのシステムにアクセスすることで活用することができます。約1,000本の学習教材が備えられており、「ぶんどき達人への道」（小学校4年算数）や「パソコン操作スキル検定」（高等学校 教科「情報」）のような教材があります。教師は、学級単位や学習者個別に学習の進捗状況や理解状況、学習履歴等をリアルタイムに把握しながら指導を行うことができます。学習管理システムには、3つの学習形態「みんなでスタディ」、「つづきをスタディ」、「ひとりでスタディ」があり、児童生徒の状況に応じて学習形態を選択して学習を進めていくことができます。

◇教材開発一覧◇

IT教育班では、児童生徒の学力向上のための学習教材と校務支援のためのシステムの開発を行っています。昨年度作成された主な教材及びシステムには、以下のものがあります。

「小学校学習活動支援ソフト『ゆい』」

「ぶんどき達人への道」（小学校）

「中学3年『関数 $y=ax^2$ 』」

「座標空間上の点や平面」（高等学校）

「パソコン操作スキル検定」（高等学校）

「Windowsムービーメーカーを用いた動画編集」テキスト

「スライド作成のポイント」

「あいさつ支援ツール『あいさつ君』」（特別支援）

「Access版『生徒検索システム』」（高等学校）

○コミュニケーションシステムの概要

コミュニケーションシステムは、以下の機能を統合して児童生徒の学習を離れた場所から支援するもので、離島・へき地における児童生徒のコミュニケーション能力や情報活用能力育成の機会を提供します。

1. TV会議

Webカメラを利用した動画・音声のリアルタイムな送受信により、相手の表情を確認しながらのコミュニケーション能力の育成を目的としています。

2. メール

校内外における生徒と担当教師のメール送受信が可能で、メール活用能力や利用上のモラルの育成を目的としています。

3. 掲示板

校内や教科毎、さらに他校との共有掲示板として活用できます。掲示板を活用した情報共有や意見交換を目的としています。

4. ライブ配信

研究授業や学校行事等のライブ送受信が可能で、離島・へき地における情報発信・受信の機会を図り、情報活用能力の育成を目的としています。

＜美ら島e-netトップ画面＞



教育相談事業

～動物介在体験活動を通して～

本センター教育相談研究室が担当する、適応指導教室「てるしの」では、県内唯一の県立の適応指導教室ということで、近年高校生の受け入れが増加しています。学校に登校していない時期が長期にわたり、自我の確立という大切な時期に来室する生徒たちは、それぞれ大きな問題を心に抱えています。周りの人間に心を開くだけでも多くの時間が必要です。本適応指導教室では、そのような生徒たちが安心して過ごし、体験活動や学習活動をとおして心の力（レジリエンス）を回復し、社会復帰、学校復帰ができるように支援しています。体験活動の中でも、本適応指導教室で特徴的なものが、「動物介在体験活動」です。ハムスター、ウサギといった小動物から心のキャパシティを上げ、今年度は、ヤギ、在来馬へとレベルアップして、市内の動物園「こどもの国」の協力を得、ヤギと馬にレベルアップし挑戦しています。月2回の乗馬活動では、馬の観察、声かけ、グルーミング（触れること）から、その馬に指示を出しながら引き馬し、乗りこなしていく中で、信頼関係作りからアサーション（自己表出）へとコミュニ

ケーションを進化させていく過程を見事に見せてくれました。生徒の表情も明るくなり、心の底からの関わり、真剣さや楽しさをみせています。生徒自身も自分の気持ちの変化に驚くほどです。今後も、この活動を継続し、児童生徒の心を観ながら体系化し、発展させていきたいと考えています。生徒達はその成長の過程で獲得できなかった心の栄養を提供できるよう、これからも生徒の心に添って活動をすすめていきたいと思っています。



乗馬活動

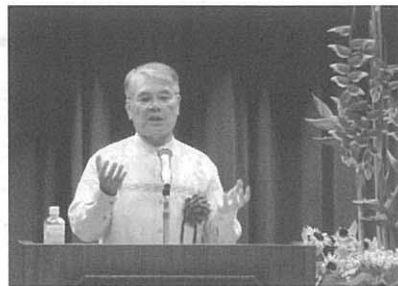


沖縄県教育研究所連盟大会特別講演

沖縄県教育研究所連盟は、県内の教育研究所並びにこれに準ずる教育機関をもって組織され、加盟機関の連絡提携、研究成果の交換等を行い、教育の改善、進歩に寄与することを目的としています。その目的を達成するために、平成20年度沖縄県教育研究所連盟研究大会が、本教育センターにて6月12日（水）行われました。この大会は、毎年開催され、その主な内容としては、総会、研究発表会、講演会、情報交換会などからなっています。今回の講演会は、講演者として稲嶺恵一前知事をお招きし、『「県政8年間を振り返って」～人材育成のためのシステムの構築をどのように図るか～』と題してご講話頂きました。

講演内容は、当時の県政、国政、外国との交渉等を通して、様々な視点から国際社会の中で、我が国、沖縄が果たすべき役割等についてお話し

て頂きました。特に、人材育成のキーワードとして「安定よりもチャレンジ精神を育てること」「無限の可能性を伸ばすこと」「寛容な心を持つこと」「好きなことを見つけさせること」「人に感謝する心」等が大事であることを強調されました。また、「公」のために何が出来るか、教師として、沖縄県民として深く考えさせられ、改めて全員体制で物事に当たることの大切さを感じさせられ大変、意義深い講演であったことを報告します。



稲嶺恵一前沖縄県知事

平成20年度 合同初任者研修

＝「国際理解教育」「沖縄の伝統文化」＝



「民族衣装を着て」

☆☆☆目的☆☆☆

- (1) 学校における国際理解教育の進め方を学び、国際理解教育推進への意識の高揚を図る。
- (2) 郷土の伝統文化を鑑賞することによって、歴史や文化への関心を深め、それらを尊重する態度を養う。



「南風原高校生の皆さんと」

初任者の声

- 「文化に違いがあっても優劣はない」の言葉に感銘！国際理解教育の根底にある「自他を大切にする」「共生」を感じた。
- とても素晴らしい演舞に感動！沖縄の伝統文化に誇りを感じた。
高校生の生き生きした活躍にこのような生徒を育てたいと思った。

☆☆☆受講者☆☆☆

新規採用幼稚園教員	24人
市町村立小学校初任者	136人
市町村立中学校初任者	56人
県立高等学校初任者	106人
特別支援学校初任者	24人
新規採用養護教諭	15人
合 計	361人



「全員でカチャシーの練習」

平成20年度 県立学校教職5年経験者研修

第一回

- 1 ねらい 教職5年目の教育実践を踏まえ、本県教育課題を理解し実践的職務遂行能力の向上を図り、学校教育の充実改善に資する。
- 2 期 日 平成20年7月22日(火)・23日(水)：本島・久米島地区
平成20年7月24日(木)・25日(金)：宮古・八重山地区
- 3 内 容 「本県の学校教育における課題」「キャリア教育・進路指導」「教育相談・生徒指導」「特別支援教育」

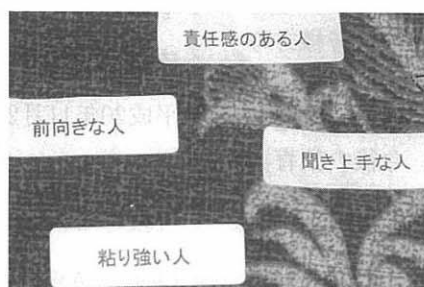


第二回

- 1 ねらい 教職5年目の教育実践を踏まえ、本県教育課題の理解並びに教科指導についての研修を深め、学校教育の充実改善に資する。
- 2 期 日 平成20年8月4日(月)～6日(水)
- 3 内 容 「服務」「学習指導要領・教育課程について」「学力向上に向けて」「教科(専門)指導の工夫・改善」「各自の課題レポートによる分科会」



「SGEいいところ探しの演習」



責任感のある人

前向きな人

聞き上手な人

粘り強い人

「あなたの良さは?!」

教職5年経験者の声

- 「いいところ探し」が非常に良かった。HR等でより良い関係を深めるために取り入れたい。
- 自分でやってみて非常に楽しかった。学級経営に活かしたい。

研修を終えて



特別支援教育班 知的・情緒障害教育
県立大平養護学校教諭 岡越 猛

風薫り、新緑さわやかな季節に研修が始まり、無事に半年間の研修を終えることができました。様々な研修を通して、特別支援教育への期待の大きさを痛感し、各研修員がそれぞれの学校で、今回の研修で得た知識や成果を還元することが必要だと感じます。研修では、班長をはじめ各担当主事のサポートに深く感謝しています。また、共に支え理解しあえる仲間に出会えたことが、最大の喜びです。今回の研修にあたりご協力いただいた、各学校、職員、保護者に感謝いたします。



教育経営研修班 組織マネジメント
県立浦添高等学校教諭 宮平 壮

学校を離れる大きな不安が、離れてみてこそ多くのことを客観的に判断・理解し、さらに広い視野を得ることで、改めて「教師」という素晴らしい職業を実感した。そして、「教育」という奥深い言葉の意味を見つめ直す機会となった。また、校種の違う先生方との情報交換や、互いの校種の思い等を共有し、仲間となれたことは大きな財産である。この研修を受ける機会や半年間支えていただいた多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



教科研研修班 地歴・公民
県立那覇高校教諭 仲田 邦彦

素晴らしい研修員の仲間恵まれ、緑と花に囲まれた環境の中、充実した研修を通して個々の目指す研究成果を得ることができました。これも勤務校の生徒や職員、所長、班長、主事の皆様方の暖かい支えがあったことでした。感謝申し上げます。私たちの仕事は、学んだ事を子どもたちへ還元していくことです。新たな気持ちで、今後の教育実践に励みたいと思います。このような機会を与えていただきありがとうございました。



理科研研修班 化学研究室
与儀小学校教諭 幸地 巧

半年間の研修はとても短く感じられ、充実した時間を過ごすことができました。研修を進めていく中で、授業研究ゼミや検討会等において主事の方々から、厳しいご指摘も多々受けました。しかし、その厳しさの根底には、我々研修員に対する期待感を強く感じることができました。いろいろな研修を受ける中で、どんな些細な質問にも、とても丁寧に、ときにはユーモアを交えながら回答下さり、主事の方々の温かさも伝わってきました。また、研修員も常に前向きで、お互い校種を超え、それぞれの研究に対し何でもいえる雰囲気になりました。このような恵まれた環境の中で研修及び研究ができたことは、とても幸せだと思います。班長をはじめ各主事の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。ここで学んだことを、学校現場で職員や児童・生徒に還元していきたいと考えています。

平成21年度長期研修員募集

目的

今日的教育課題を解決、改善していくために、各自の研修教科・領域に関する理論及び実践力の向上と文化的教養の深化を図り、使命感を持った積極的な人材を育成し学校教育の活性化と発展を目的とします。

研修期間

前期 平成21年4月1日～平成21年9月30日

後期 平成21年10月1日～平成22年3月31日

1年 平成21年4月1日～平成22年3月31日

申込み締切

平成20年11月28日（金曜日）

各学校へ送付した募集要項若しくは沖縄県立総合教育センターHPをご覧ください。

<http://www.edu-c.open.ed.jp/>